

第 8 5 回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成 15 年 7 月 11 日(金) 13:30～16:30

場所：八重洲センタービル会議室

出席者：委員長 大崎（東京大）
副委員長 北野（JR 東海）
委員 牧（東海大）、脇若（信州大）、渡辺（FDK）、海老原（武蔵工業大）、
楡井（長野高専）
幹事 水野（信州大）、村井（鉄道総研）
幹事補佐 真田（大阪府立大）、鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 85-1 第 84 回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 85-2 第 69 回産業応用部門研究調査運営委員会報告（大崎委員長）
- 85-3 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 85-4 平成 15・16 年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 85-5 リニアドライブ研究会(9-25-26)講演申込のお願い（水野幹事）
- 85-6 神戸 11 月末リニアドライブ研究会（村井幹事）
- 85-7 最近発行の LD 技術報告書（大崎委員長）
- 85-8 電気学会産業応用部門大会のポスタ原稿のお願い（水野幹事）
- 85-9 委員会構成員変更届（水野幹事）
- 85-10 LD 技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（案）（真田幹事補佐）
- 85-11 第 15 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム報告（山田委員）
- 85-12 委員会構成員変更（大崎委員長）
- 85-13 平成 16 年度活動計画 第 0 次案（大崎委員長）
- 85-14 多次元ドライブシステム調査専門委員会解散報告書（案）（海老原委員）
- 85-15 Journal 編集委員会規程（北野副委員長）
- 85-16 多次元ドライブシステム調査専門委員会（MDD）活動報告（海老原委員）
- 85-17 磁気支持応用機器におけるダイナミクス調査専門委員会（MLV）活動報告（村井幹事）
- 85-18 産業用リニアモータの特性測定法と評価技術調査専門委員会（MEL）活動報告（水野幹事）
- 85-19 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会（LMD）活動報告（楡井委員）
- 85-20 第 7 回 多次元ドライブシステム調査専門委員会 議事録（海老原委員）
- 85-21 第 7 回 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会 議事録（楡井委員）

議事

1 議事録確認

資料 85-1 を用いて議事録確認を行い、承認された。関連して、HSST 見学会の報告が必要であること、委員追加については、1 号委員が多すぎるのでとりあえずベンディングとしたとの指摘があった。

2 報告事項

- 2.1 資料 85-2 を用いて、大崎委員長より、D 部門研究調査運営委員会の報告があった。調査会議の概要報告が報告され、会計基準の見直しが行われるとのこと。また、SLD 委が承認された。関連して、研究会開催費用（会場費、アルバイト代）の請求が可能なことの確認が行われた。
- 2.2 資料 85-3 を用いて、委員会名簿の確認を行った。
- 2.3 資料 85-4 を用いて、平成 15・16 年度各委員会の予定を確認し、以下の修正があった。
 - (1) LMD 委員会：開催予定日を 9/19 から 9/24 に、12/16 から 12/19 に、それぞれ修正
 - (2) LD 研究会：12 月の研究会の日程を 12/18,19 長野とし、MAG 共催は外す
 - (3) 関連会合：11/8-11 ICEMS2003(Beijing, China)を追加
 - (4) 関連会合：H16 年 9/2-4 EPE-PEMC(Riga, Latvia)を追加
 - (5) 関連会合：H16 年 9/5-8 ICEM2004(Krakow, Poland)の日程決定
- 2.4 水野幹事より、資料 85-5 を用いて、9/25,26 開催予定の LD 研究会の申込状況の説明があった。15

件予定のところ9件の申し込みがあり、若干少なめであるため、発表申し込みを7/15までにしよう依頼があった。

2.5 村井幹事より、資料85-6を用いて、11/27,28開催予定のLD研究会の案内があった。

2.6 資料85-7を用いて、大崎委員長より、最近発行の技術報告書の一覧が紹介され、最近発行のTLP技報の紹介と購入のすすめがあった。関連して、SEL、SLD、ECDの技術報告の進捗状況の確認が行われた。

2.7 資料85-8を用いて、水野幹事より、D部門大会の技委ポスタ発表^{取組}についての連絡があった。MDD & ECDが未報告であること、水野幹事が作成し、当日発表は鳥居が行うことが確認された。

2.8 資料85-9を用いて、TLP委員追加6名の事後報告があった。関連して、研究会・調査専門委員会の有機的な結びつけによる、発表数の増加方策が検討された。

2.9 資料85-10を用いて、真田幹事補佐より資料提出スケジュールの確認があった。

2.10 6/16に行われたHSST見学会の報告が行われた。また、8/6に実施予定の山梨リニア実験線試乗見学会について、十数名程度で技術委員会メンバーを対象として行う予定であるとの報告があった。

3 審議事項

3.1 大崎委員長より、資料85-11を用いて、第15回電磁力シンポの開催報告があった。次回は小倉で、機械学会主催で行われる。3年後の開催概要を、来年までに決めておく必要があるとの指摘があった。

3.2 大崎委員長より、資料85-12を用いて、委員会構成員変更の報告、承認が行われた。

3.3 北野副委員長より、資料85-15を用いて、機械学会の論文推薦制度について、国際会議から英文論文集への推薦をしている例が紹介された。D部門誌投稿の増加策として、1号委員をLD研究会の座長にして、D部門誌投稿への推薦をする、LDIAの発表から選んで推薦する(英文論文でLD特集が組める)等の方策が提案され、これらを部門編修委員会に提案するべきであるとの意見があった。

3.4 大崎委員長より、資料85-13を用いて、来年度の活動計画案についての説明があった。研究会の総発表件数は120件であるが、確保できるかは疑問であるため方策を練る必要がある、主力部分が9-12月に集中しているのは、全国大会、電磁力シンポ、D部門大会との兼ね合いからそうになっているが、場合によってはずらすことも考えるべきである、等の意見が出された。

3.5 海老原委員より、資料85-14を用いて、多次元ドライブシステム調査専門委員会の解散報告書の私案について説明があり、内容に関する意見交換が行われた。これを基に修正し、委員会で議論の後に再度提出することとした。

4 各調査専門委員会活動報告

資料85-16~85-21を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

5 その他

5.1 LD技術委員会の構成についてベテラン委員の退任等の意志の確認、新委員候補の現況についての情報交換が行われた。1号委員を、研究会担当(企画など)を割り当てて、座長もやってもらうという提案があった。顧問格として、元委員を中心とするアドバイザーMLを立ち上げることにした。

5.2 調査専門委員会の整理統合に関する提案が行われ、LMDとMDDを統合する可能性についての議論があった。

5.3 研究会発表の活性化についての議論があった。初期に比べて研究会の重みが低いのは、テーマごとに分散していることが主因であり、現状年6回の開催数についても再考するべきであるとの意見があった。

5.4 近日中に、技術委員会MLを立ち上げることに、調査専門委員会MLを各委員会で作成してもらい、それらを統括するアドレスを設けることにした。

以上